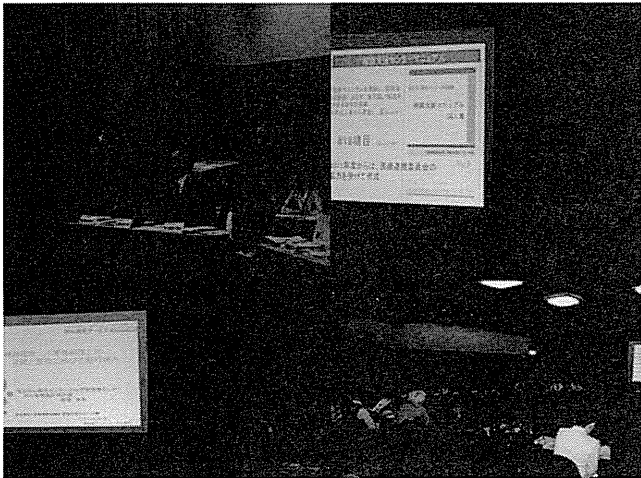




検討会議等でてきた意見

3つのポイント

- 掲載内容について
- 予算について
- 広報について

掲載内容について

- 「が」とんという病に関して、正確な情報を調べる手立てがない。
- 地域連携パスの掲載(連携機関一覧も)
- (名古屋市)陽子線治療施設の説明
- 在宅支援診療所情報の掲載
- がん拠点病院の特徴・治療法などを掲載

がん拠点病院載の特徴、治療法などを掲載

○がん診療連携拠点病院からのメッセージ(厚生労働大臣指定)		
連携型	病 院 名	メッセージ
	愛知県がんセンター中央病院	当院は、がん専門病院として、最先端で最良のがん医療を最速な環境で提供することを目指しています。標準的治療を普及させるべく、コンソーシアムであることにも取り組んでいます。治療や臨床試験などを通じて最新の情報の発信源となるよう努めています。また、明日のがん医療を担う医療従事者の育成・研修にも力を注いでいます。
	独立行政法人 国立がん研究センター 名古屋医療センター	当院は、がん患者さんの治療方針の決定を、外科、腫瘍内科、放射線治療等、複数の領域の専門医による「カンサード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めています。
	名古屋大学医学部	名古屋大学は、教育や研究を行う大学附属病院であるとともに、患者さんに質の高い医療や有益な情報を提供する地域のがん診療の拠点としての役割を担っています。がん領域だけでなく、ほか

予算について

- 愛知県への予算要求
 - 愛知県健康福祉部への予算要求
 - 愛知県がん診療連携協議会としての予算要求(愛知県病院事業庁)
 - 研究班への依頼
 - 愛知県への予算繰りを試みたが結局初版では、急な予算の対応が難しく、渡邊先生の研究班に頼ることとなった。
- | | | | |
|----------|-------|-------------|-------|
| 初版1,000刷 | 51ページ | 企画・制作内容及び仕様 | 約80万円 |
| | | 印刷代金 | 約16万円 |
| | | 計 | 約96万円 |
- ようやくこの11月、愛知県の予算で増刷版に対応。
増刷版5,000刷 36ページ 約27万円

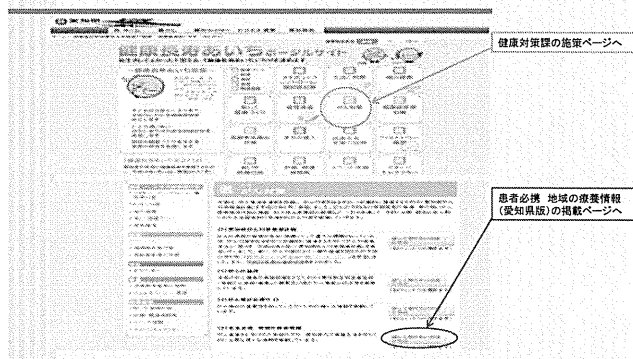
初版 配布先一覧

配布先	配布部数
国指定がん拠点病院	35冊×14施設 490冊
県指定がん拠点病院	35冊×8施設 280冊
愛知県健康福祉部	10冊
愛知県がんセンター中央病院	40冊
がん患者団体	3冊×10施設 30冊
研究班	100冊
予備	50冊
合計	1000冊

広報について

- ・一般県民へ「地域の療養情報」という冊子を送り届けるアクセス方法が大事
- ・地域(自治体)から各家庭あるいは地域の診療所などの医療機関に置かれてこそ効果がある。
- ・県から県の広報誌に掲載したり、や地域の広報誌などに掲載していただけるように依頼してはどうか。
- ・国や県へ多くの人が目にする場所へ冊子配布を行う働きかけをする。
- ・現在、年齢に応じて県からがん検診の無料クーポンなど配布しているが、余白に患者必携のことなど掲載できないか。

県の広報誌や地域の広報誌などの掲載状況の一例



県のがん検診配布無料クーポンに、がん拠点病院の特徴・治療法等を掲載した一例 相談支援センターの紹介

初版配布後のアンケート結果

- 患者・家族に役立つと答えた人 92%
- 内容(詳しくすぎる・簡単すぎる)は、ちょうどよいと答えた人 80%
- 医療・介護関係者に役立つと答えた人 80%
- 取り入れて欲しい情報:がんサロン、緩和ケア病棟の問い合わせ先、緩和ケア外来、訪問看護ステーション、がん拠点病院を受診するメリット・デメリット

今後の課題

- 実際に患者さんへの配布を考えた増刷の必要性
- 最新情報とするため、定期的な記載内容の更新
- 関係者、患者さん等への情報収集の継続。
- 改訂版発行のための予算

ご静聴ありがとうございました。



みんなでつくろう、地域で支えよう、
がん患者さん支援の輪
～患者目線で考える地域の療養情報～

「愛知県の取り組み」

愛知県がんセンター中央病院
病院長 篠田雅幸

2012年11月21日

がん医療に関する相談支援及び
情報提供の拡充

・基本方針

インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要があることから、がんに関する情報を記載したパンフレットやがん患者が必要な情報をまとめた冊子を拠点病院などのがん診療を行っている医療機関で提供していきます

「愛知県がん対策推進計画」より一部抜粋

がん医療に関する相談支援及び
情報提供の拡充

・目標

がんに関するパンフレットの種類を増加させ、
全てのがん患者とその家族が入手できるように
する

・主な施策

国などが作成するがんに関するパンフレットを
拠点病院などと連携し、患者とその家族が
入手できるように努める

「愛知県がん対策推進計画」より一部抜粋

地域の療養情報作成スケジュール

- ◆ 平成23年1月20日(木):
地域の療養情報(愛知班)検討会
- ◆ 平成23年10月14日(金):
第1回相談支援部会
- ◆ 平成23年11月11日(金):
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて
～地域における情報発信とがん患者支援～
- ◆ 平成24年2月7日(火):
第1回相談支援センター会議
- ◆ 2月中に愛知県健康対策課から、
主要な県内がんに関係したNPO法人へ意見聴取
- ◆ 2月下旬～3月初旬
相談支援部会開催 地域の療養情報の内容決定
- ◆ 3月初旬 渡邊先生へ原稿提出

がん患者らの体験集め、発言「患者必携」愛知など地域版

中日新聞 朝刊(2011年3月8日)



がんの地域情報について話し合う患者や家族たち＝
名古屋市千種区の愛知県がんセンターで

医療が専門分化して複雑になるや、「患者や家族の視点で医療に盛り込む」という動きも盛んになってきて、患者の役に立つ医療情報の発信、患者の思いをくみ取れる医療者の育成を目指す2つの取り組みを紹介する。

(編集委員・安藤明夫)

名古屋市千種区の愛知県がんセンターで1月、45人のがん患者や家族らが団に分かれて討議した。テーマは「患者必携・愛知版」にどんな情報を盛り込むか。「患者必携」とは、東京の国立がん研究センター内にあるがん対策情報センターが、がんの最新知識や患者へのアドバイス、療養生活のヒントなどをまとめた労作で、同センターのホームページで公開されている。

この全国共通情報と併せて、身近な地域情報を提供していくのが「愛知版」の目的。盛り込む情報としては、県のがん対策推進計画の翻訳や、がん診療連携拠点病院など医療機関のガイド、相談窓口などが考えられるが、それだけでは患者が手に取ってくれるか分からない。

相談先、飲食店情報も

会場からは「専門病院の紹介の中に、疾患別の治療成績や心のケアの対応を書いてほしい」「患者が利用しやすいレストランガイドを」「若い乳がん患者は子どもの問題で困るので、相談先のリストを」などを、経験に基づいた提案が相次いだ。この会を企画した愛知県がんセンター中央病院の篠田雅幸院長は「適切な医療にたどりつけない」「がん経験」を減らすには、使いやすい情報を提供することが不可欠。そのために患者さんの視点を取り入れていきたい」と話す。今後、情報発信の手段、PR方法などを検討していく。

全国版はネットで公開

全国版の「患者必携」にも患者・市民60人の視点が入っている。当初の文章にあった「残された時間」という表現は「限られた時間」に改められた。入院時の持ち物リストには「乳液は無香料のもの」「パジャマは前開きのほうがいい」など体験に基づいたアドバイスが生かされた。

リーダーを務めた渡辺清高医師(がん対策情報センターがん医療情報サービス室長)は「患者さんの手記やQ&Aも好評です。がん以外の病気にも、こうした情報発信が必要だと思う」と話す。

全国版の患者必携は、今月「患者必携 がんになったら手にとるガイド」(学研メディカル秀逸社、1200円)として出版された。静岡県など4県の地域版「患者必携-試作版」も、がん対策情報センターのホームページで公開している。

がんの地域情報について話し合う患者や家族たち



名古屋市千種区の愛知県がんセンターで(2010/1/20)

愛知県がん診療連携拠点病院 相談支援センター会議について

日 時:平成24年2月7日(火) 13時30分～16時30分

場 所:国際交流センター大会議室

内 容:

- ①講演「がん情報の活用について(仮題)」
国立がん研究センターがん対策情報センター
渡邊清高先生
- ②講演「国立がん研究センター相談支援センターの
運用について(仮題)」
国立がん研究センター 相談支援室
樋口由起子先生
- ③各拠点病院における相談支援センターの活動について

愛知県版「地域の療養情報」に対する アンケート

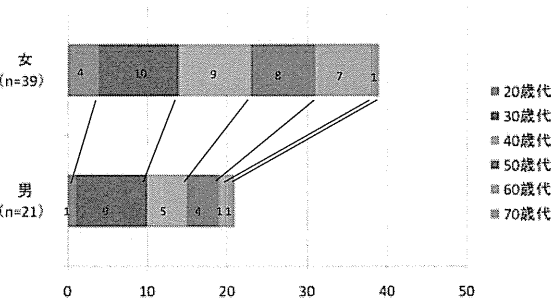
◆配布した病院及び団体

- がん診療連携拠点病院(厚生労働大臣指定) 15病院
- がん診療拠点病院(愛知県知事指定) 8病院
- がん患者会(地域の療養情報愛知県版掲載) 10団体

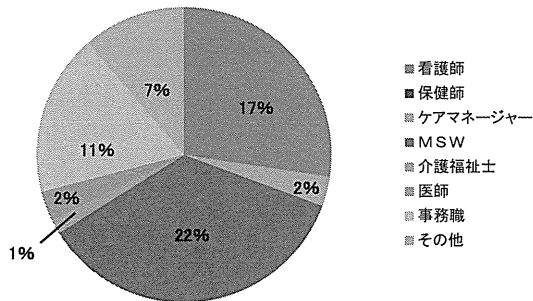
◆期間

平成24年6月26日 ～ 7月27日

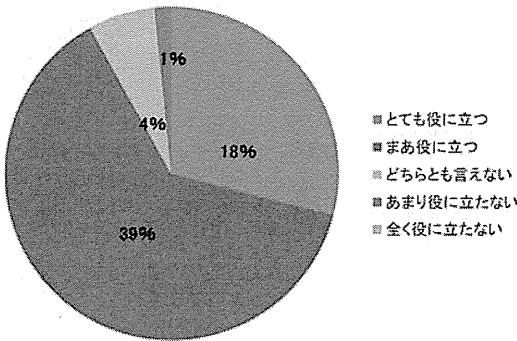
アンケート記入者の性別・年齢



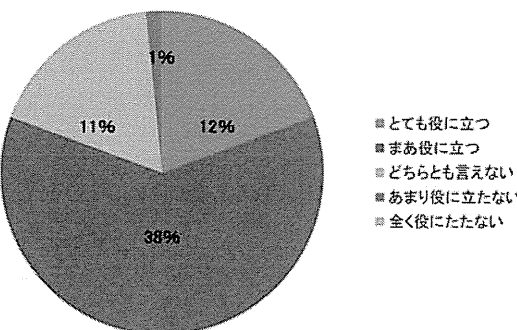
アンケート記入者の属性（職種）



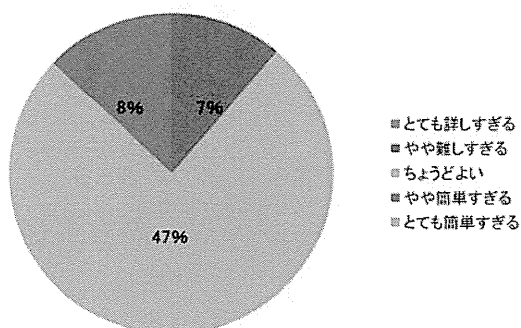
愛知県版「地域の療養情報」は 患者・家族に役立つか



愛知県版「地域療養情報」は 医療・介護関係者に役立つか



愛知県版「地域の療養情報」の内容（難易度）について



掲載して欲しい情報

- ◆関係者について
こころのケアについての関係者の紹介
- ◆こころがまえなど
導入にがんの全般的解説の記載があれば親しみが持てる
- ◆その他
どのような相談をしてよいか問い合わせがあるので、相談内容の例を紹介するとよい

記載方法・表現に関すること

- ◆漫画を入れて案内、説明するとより身近でわかりやすくなる
- ◆活字ばかりだと手に取りにくいので写真などを入れるとよい
- ◆クリニカルパスやジェネラリストナースなどの専門用語が患者にはわかりにくい。
- ◆患者へのいたわりの心遣いのある表現を増やしてほしい

その他

- ◆今回の療養情報は簡潔にまとめられており、拠点病院から患者会まで大変行き届いた情報になっている。この情報が早い段階で医療機関から患者の手元に配布されることを望む

地域での普及の可能性、課題、活用を促す取り組み（１）

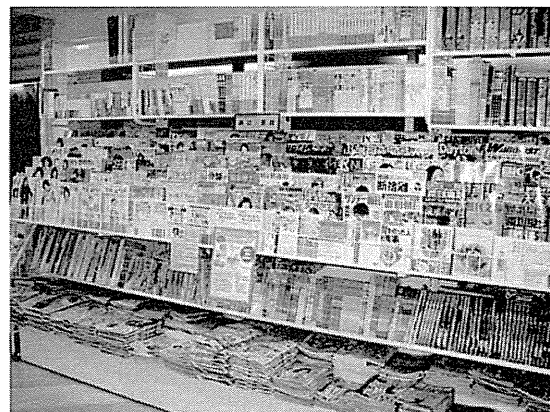
- ◆情報を得ようとしてもインターネットでは適さない方もたくさんいる
- ◆医療用品を取り扱っている介護用品業者や薬局などの店頭においてもらう
(役所などは用事がないといかない)
- ◆がんと診断された方すべてに配布する

地域での普及の可能性、課題、活用を促す取り組み（２）

- ◆患者、家族が求める情報の内容を厳選し、問い合わせ先を明記するなど中途半端でない冊子にしないと普及の可能性は高められないと思われる
- ◆医療者（がん相談員）用に、より網羅的な情報を含んだ冊子があるとよい

地域での普及の可能性、課題、 活用を促す取り組み（3）

- ◆項目ごとに分けて提供できるような冊子の
装丁であれば、個々の要求に対応でき
不要な情報まで与えずにすむ
- ◆改訂のための予算はあるか



京都府健康対策課がん対策担当
古川 浩気

1



参加者約300人

平成23年10月25日(火)
@ホテルグランヴィア京都



市田ひろみ氏 kickoff宣言
「みんなで、できることから」



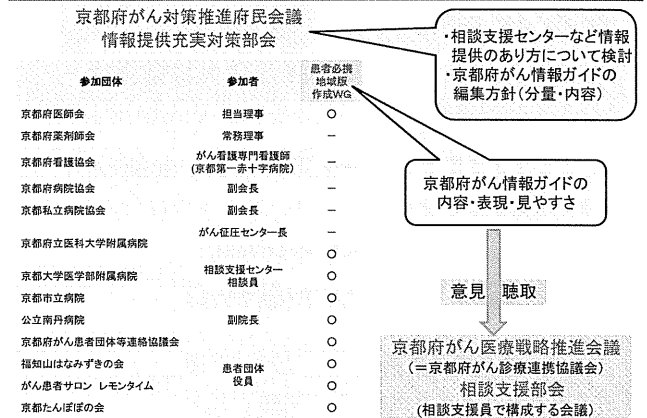
鳥越俊太郎氏 基調講演

「がんには痛みなど自覚症状がないから、自分で積極的にがん検診を受けることが大事。」
「行政主導ではダメ。地域が主役にならないと府民は動かない。」

Copyright (C) Kyoto Prefecture. All Rights Reserved.

7

作成に向けた検討組織



検討経過

H23.10.25	京都府がん対策推進府民会議 設置 ・情報提供充実部会の設置について承認
H23.12.19	情報提供充実部会(第1回) ・情報提供・相談のあり方について ・地域の療養情報(京都府版)の作成について確認
H24.1.23	情報提供充実部会(第2回) ・地域の療養情報(京都府版)たたき台の提示
H24.3.5	地域の療養情報(京都府版)作成WG ・地域の療養情報(京都府版)修正案の詳細内容確認
H24.4~8月	・WG委員意見 ・京都府がん医療戦略推進会議相談支援部会 の意見を踏まえ修正
H24.9~11月	関係団体あて内容確認依頼
H24.11.29	情報提供充実部会(第3回) ・地域の療養情報(京都府版)の内容確認 ・普及方法について
24年度中	地域の療養情報(京都府版) 印刷・配布、ホームページアップ

作成の考え方

1 作成趣旨

がん患者や、そのご家族等へ必要な情報を適切に届けるため、国立がん研究センターが作成している「患者必携」を補正し、地域の窓口情報等を提供する冊子を作成する。

2 どこまで詳細な情報を載せるか

各種制度や用語解説、生活上のアドバイス等
様々な情報について掲載すべき

冊子が厚すぎると利用してもらいにくいので留意すべき

冊子には窓口情報等を中心に掲載し、詳細な情報についてはインターネット等で掲載していく。

(理由)・冊子の使いやすさ、印刷経費の減等 普及面を考えれば、詳細な情報を載せて分厚くすることは適当ではない。
一方でインターネットに情報を公開していれば、家族や相談窓口職員等のインターネットを使える人経由で、患者に情報提供できる。

3 国立がん研究センター「患者必携」との関係

冊子のボリュームや、「地域の療養情報」の作成趣旨から、「患者必携」に載っていない情報を優先的に掲載する。

作成の考え方

載せた方が良く、意見があったが、割愛した情報

情 報	割愛した理由
各患者サロンの特徴	
拠点病院以外のがん治療	冊子のボリュームの制約があるため、これらの詳細な情報については含めず、インターネット等での発信を検討
特殊な放射線治療	
用語解説	国立がん研究センターの「患者必携」で一定解説されており、どうしても解説が必要な用語に絞る
生活上役立つこと、注意点、国立がん研究センターの「患者必携」に一定記載されており、記載のないことで書くべきことがあれば対応	
「患者必携」も入手しやすくなることが必要	
・がん拠点病院、京都府指定病院全ての売店で「患者必携」を発売するよう徹底	
・患者必携の貸出について今後検討	

その他の意見と対応

見たい項目にすぐたどり着けるようにチャート式にしてはどうか。	目次の次に「ガイドマップ」を設け、テーマごとに必要な情報によりたどり着きやすくした。
イラストを用いて見やすくして欲しい	印刷時に対応する。
沖縄県等を参考にもっと柔らかな表現で書くべき。	沖縄県等を参考により患者さんを意識した表現に変更した。
無料で車椅子を貸してくれるところの連絡先を載せてはどうか	市町村社協、区社協を紹介した。
全国がん患者団体の京都支部を載せてはどうか	ある程度知っている団体(あけぼの会、日本オストミー協会)の京都府支部等を追加した。
女性相談窓口も載せてはどうか	追加した。
保育サービスについて載せてはどうか	追加した。
大阪府のように信頼性のあるネット情報源をもっと紹介して欲しい	追加した。
様々な情報冊子があり、まず何を見れば良いかわかりやすい周知が必要。	「患者必携 がんになったら手に入るガイド」と「京都府がん情報ガイド」をセットで広報したパンフレットを作成する。

府民会議の情報提供の取組

府民会議参画団体(特に、拠点病院、府指定病院以外)へのがん情報提供強化

○国立がん研究センター発行の冊子情報の提供(メーリングリスト)

- ・「知って安心 がん情報」・・・4団体から配布希望
- ・「身近な人ががんになったとき」・・・20団体から配布希望

※希望した団体の種類

- ・・・市町村、医療関係団体、医療保険者、患者会、金融機関等

御清聴ありがとうございました



「地域の療養情報」をツールに情報提供の府民運動を進めていきたいと思います。

御指導よろしくお願いします。

健診は

検索

Copyright (C) Kyoto Prefecture, /...
Rights Reserved.

栃木県における がん情報普及の取り組み



<http://www.tcc.pref.tochigi.lg.jp/>

栃木県立がんセンター 病院長 清水 秀昭
同 相談支援センター 相談員・相談研修課長(保健師) 佐山由美子
同 相談支援センター 相談員(保健師) 長野 泰恵
栃木県保健福祉部健康増進課 渡辺 晃紀

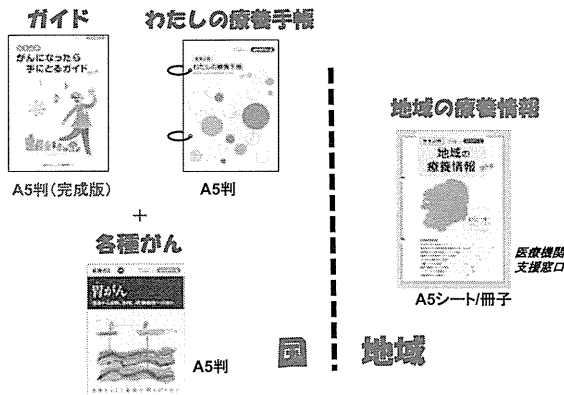
「地域における情報発信とがん患者支援」研修会 2012年11月21日

【背景】

2007年6月に策定された「がん対策推進基本計画」において、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情報を取りまとめた患者必携を作成し、普及することが提言された。

それらを受けて、「地域における患者支援のためのがん情報地域ネットワーク構築の介入モデル作成」厚生労働省研究班による検討が行なわれた。

患者必携(完成版)での変更



栃木県がん診療連携協議会

※ 参加組織

(1) がん診療連携拠点病院

◇ 県拠点病院 (★) 栃木県立がんセンター

◇ 地域拠点病院 (☆)

上野賀総合病院 済生会宇都宮病院
東北医科大学病院 自治医科大学付属病院
佐野厚生総合病院

◇ 県指定病院 (☆)

大田原赤十字病院 足利赤十字病院

(2) 県内各地域の中核病院 (★)

下野賀総合病院 国際医療福祉大学塩谷病院
国際医療福祉大学病院 国立病院機構栃木病院
芳賀赤十字病院 小山市民病院
国立病院機構宇都宮病院

(3) 県医師会 (4) 県病院協会

(5) 県看護協会 (6) 県薬剤師協会

(7) 県保健福祉部

※ 部会を設置して具体的な事業を推進する

部会の名称	主な協議内容
(1) 研修部会	がん診療に係る研修(医師、看護師及びコメディカル)
(2) 相談支援部会	がん診療に係る相談支援に関する事項
(3) がん登録部会	院内がん登録に関する事項

栃木県：人口約200万人
5つの二次保健医療圏

緩和ケア研修 WG
地域連携バス WG
地域連携マネージャーWG

【目的】

栃木県における「がん患者必携」の普及活動を通して自立支援型がん情報の大切さを周知するとともに、

地域における患者支援のためのがん情報地域ネットワーク構築の介入モデル作成について検討を行なう。

【取組み】

1) がん情報提供:

- ① 市民公開講座等の開催
- ② 地域における情報づくりと活用

2) ネットワーク構築:

栃木県健康増進課と連携のもと健康福祉センター(保健所)主催で研修会を開催する。患者・家族を支援する立場にある医療・介護関係者に向けて情報提供し、ワークショップを通して顔の見える環境整備を行なう。

【がん情報提供】

市民公開講座
がん「患者必携」
一栃木の取り組みー

普及 から支援へ

配布だけでなく、
患者さんの知りたいことを
明らかにして、
地域で支える患者支援の輪を
構築し、広げる！

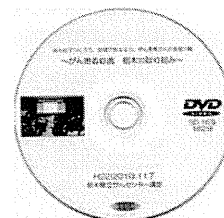


公開講座の記録媒体による情報普及

ホームページ



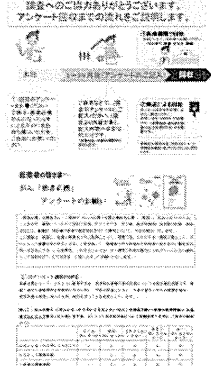
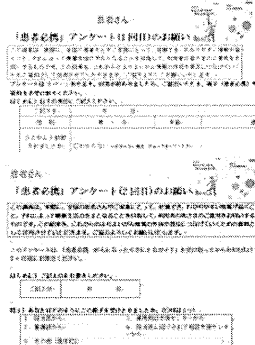
DVDの配布



- ・健康福祉センター
- ・相談支援部会参加医療機関
- などを通して患者・県民へ周知

患者／医療者へのアンケート調査

「栃木県立がんセンターにおけるパイロット調査



患者／医療者へのアンケート調査

アンケート回収／年齢・性別／初発・再発

「患者必携」配布者	105
第1回アンケート回収数	101
第2回アンケート回収数	83

第2回アンケート調査用紙回収83名(2012年4月10日)をもってアンケート調査を終了

年齢	人	性別	人	初発・再発 の状況	
30歳代	5	男	63	再発	1
40歳代	10	女	42	初発	101
50歳代	15	計	105	非がん	3
60歳代	40			計	105
70歳代	29				
80歳代	6				
計	105				

患者／医療者へのアンケート調査

部位／病期別

部位	人	0	I	II	III	IV	不明
耳鼻咽喉	4			1		2	1
食道	6		1	2	1	2	
胃	29		14	6	6	2	1
大腸	7		1	2	4		
肝	2			2			
膵	1					1	
肺	13		4	2	4	3	
乳房	9		5	2	2		
子宮・卵巣	7	1	4		1		1
前立腺	12		2	6	4		
甲状腺	2					1	1
リンパ・血液	7						
骨	1					1	
未確認	2						
非がん	3						
計	105	1	31	23	22	12	4

「患者必携：地域の療養情報 試作版(栃木)」改訂

「がん情報」とちぎ



「患者必携：地域の療養情報 試作版(栃木)」改訂

「あなたとあなたの家族のためのがんの療養情報」



<http://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/welfare/gantaisaku/chikiryojouhou.html>

「患者必携：地域の療養情報 試作版(栃木)」改訂

「地域の療養情報：栃木版」の見直しと改訂版作成

栃木県がん診療連絡協議会相談支援部会 2011年10月6日

メンバー： 栃木県がん診療連絡協議会参加施設 15病院 相談員 15名
オブザーバー： 患者家族会、支援関係団体の代表 4名

○地域療養情報の活用の位置づけ

- ・患者家族と支援者が一緒にみて確認できるツールとして活用
- ・冊子を渡されただけでの情報提供では、患者家族は動けない
- ・支援者と患者家族との相談を経た上で、その人に応じた必要な情報提供、関係機関へ連絡により具体的な支援につなげる
- ・相談支援センターにつながるためのツールとして活用

○内容の見直し

- ・協議会参加施設 相談部門の詳細な情報を掲載
- ・身近な地域での相談ができることを周知

○掲載情報更新及び作成

- ・A5 2色 30ページ × 4000部 (1冊30円)で予算確保
- ・再作成の要量があれば、県として予算計上
- ・事務局で地域療養情報(案)を作成、1月下旬 第2回の部会を開催し確定
- ・(案)作成の過程において部会委員にもメール等で確認依頼

【ネットワーク構築】

県健康増進課と連携し、研修会開催

<提案>

保健福祉部／健康増進課・保健福祉課
県保健福祉センター業務に相談支援部署

- がん相談窓口(保健師の対応)
- 地域ごと、講演会

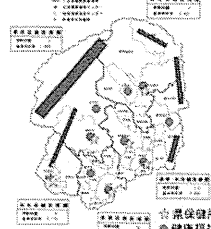
◇業務内容

- ・県／地域がん診療連携拠点病院の相談支援センター紹介
- ・がん「患者必携」パンフレット配布
- ・情報収集(「患者サロン」など)

◇研修・人材育成

- ・相談支援業務に関して、県がん診療連携拠点病院相談支援センターが主催する講習会へ参加

栃木県保健所・健康福祉センター



4疾病5事業の観点から がん情報の周知

栃木県健康増進課と連携のもと 健康福祉センター(保健所)主催で研修会

◇県南健康福祉センター研修 2010年11月4日

- がん対策における「患者必携」の役割、地域での活用方法
- 対象： 行政保健師 25名
訪問看護ステーション看護師・ケアマネ 12名

◇県東健康福祉センター研修 2010年12月9日

- 介護サービスと医療機関等との連携
- 対象： ケアサービス関係職員研修

◇県西健康福祉センター研修 2011年 9月22日

- 介護サービスと医療機関等との連携

場所： 地域がん診療連携拠点病院 上野賀総合病院
対象： ケアサービス関係／地域医療機関／病院職員／行政 研修

患者サポーター職種への研修およびアンケート調査

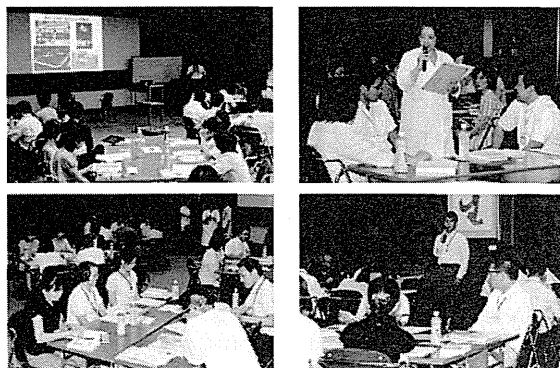
◇県西健康福祉センター研修会 2011年 9月22日



患者サポーター職種への研修およびアンケート調査

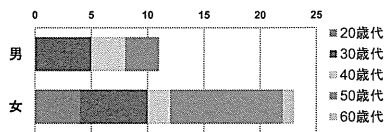
◇薬局におけるがん患者・家族支援のための研修会

2012年 9月19日

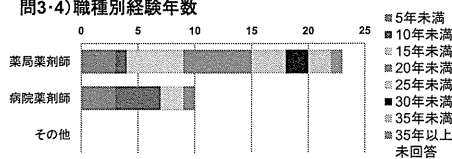


◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ①

問1・2)年齢別性別

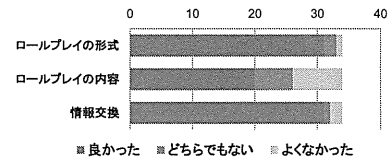


問3・4)職種別経験年数

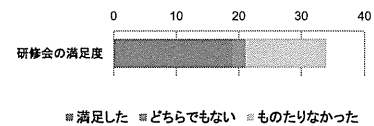


◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ②

問5-1・2・3)研修会の意見

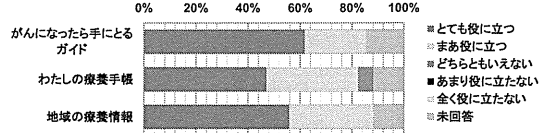


問5-4)研修会の意見

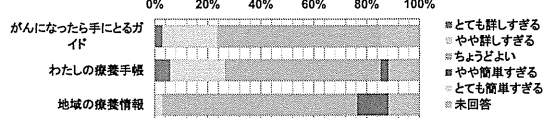


◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ③

問6)患者家族にとって役に立ったか



問7)内容について



◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ④

自由意見-1

問5)-1)ロールプレイの形式について

- ・相談者、相談される薬剤師、観察者のそれぞれになれたのでよかった。
- ・メンバーの距離がすぐ縮まった。
- ・時間が短すぎて、話が最後までいかなかった。

問5)-2)ロールプレイの内容

- ・これまで予想していなかった内容があり、勉強になった。
- ・相談内容が細かく設定されていて良かった。
- ・薬剤師としての相談内容とかなりかけはなれていた。

問5)-3)情報交換について

- ・いろんな職種の人が参加していたのが良かった。
- ・ふだん交流の少ない薬局の方と知り合いになれ、情報をえられた
- ・ふだん話せないようなざつぱらんな話ができた。
- ・現状の問題点について、多少議論できてよかったです。

◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ⑤

自由意見-2

問5)-4)研修会の満足度

- ・時間が不十分。1回で満足できる様なものでもないと思う。
- ・内容的に重要なものだと思います。このワークを1日かけて実施できるとい

問5)-5)研修会に関する意見

- ・継続を望む。1回で終わるなら全く意味がないと思う。
- ・知識の差を感じた。知らないことが分かったので良かったと思う
- ・もっとそれぞれの地域でやって頂ければと思います。

問5)-6)今後、薬剤師として希望する研修

- ・今回のような参加型の研修を望む。ただ座って聴いてシールをもらう様な研修は必要ない!!講演終了後にテストなりレポートを提出させる。
- ・看護師・ケアマネジャー等の他職種を交えたグループ研修を受けた
- ・Drがどのように処方するのか処方意図がわかる機会があればいいと思います。

◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ⑥

自由意見-3

問9)冊子に加えた方がよいと思う情報

- ・静岡のよろず相談薬局のように、配布資料をつくって薬局に置きたいと思いました。
- ・相談場所の窓口と併せて薬局の検査室を入れてもらえるとうい。
- ・薬の管理に困った時に薬剤師に相談できることを入れてほしい。
- ・健診などの必要性について一言のっているとういと思っています。

問11)「地域の療養情報」に取り入れて欲しいもの

- ・在宅を実際に行っている薬局と、いつでも麻薬の調剤ができる薬局の情報をのせてほしいです。
- ・こういうときは?という実際のフローチャートみたいなものを使ってみてはどうか?
- ・配置場所について色々な医療機関に置いて、患者本人だけでなく家族も手に取りやすくできないか?
- ・在宅での療養生活と、往診してくれる病院の情報提供

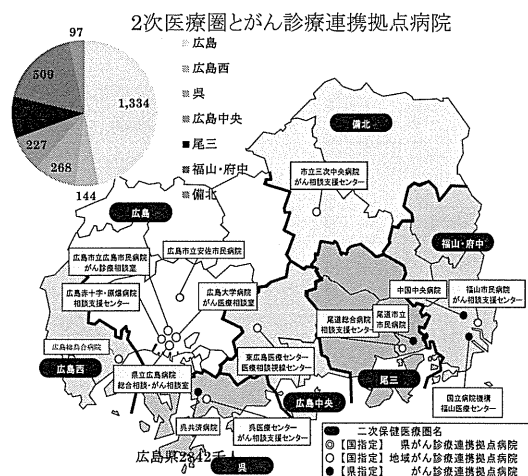
「あなたとあなたの家族のためのがんの療養情報」



広島県における地域の医療情報作成の取り組み
とその後の展開



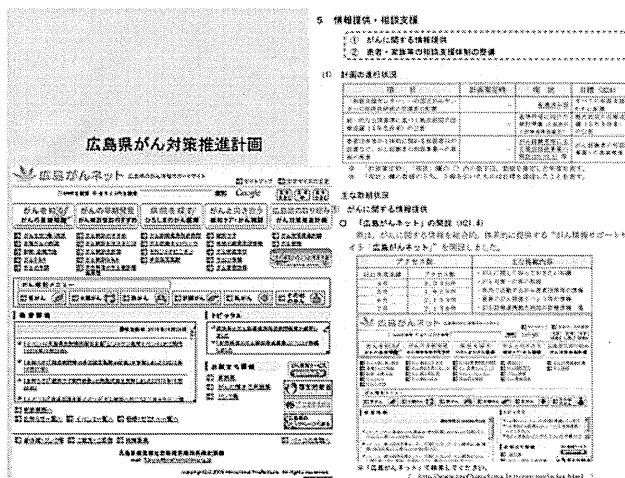
県立広島病院 臨床腫瘍科
篠崎 勝則



平成1年(1989年) 広島大学医学部医学科 卒業
平成1年(1989年) 広島大学医学部附属病院 医員(研修医)
平成2年(1990年) 北九州総合病院 外科医師
平成5年(1993年) 広島大学医学部附属病院 医員
平成11年(1999年) 広島大学大学院医学系研究科外科専攻 修了
平成12年(2000年) アリカ・ニューヨーク・マウントサイナイ医科大学
Department of Gene Therapy ポストドク研究員
平成14年(2002年) アリカ・ニューヨーク・マウントサイナイ医科大学
Department of Gene Therapy Senior Scientist
平成16年(2004年) アリカ・ニューヨーク・マウントサイナイ医科大学
Department of Gene Therapy Assistant Professor
平成17年(2005年) 広島大学医学部附属病院消化器診療科消化器外科・医員
平成17年(2005年) 広島大学医学部附属病院消化器診療科消化器外科・助手
平成18年(2006年) 県立広島病院第一一般外科・医長
平成18年(2006年) 国立がんセンター中央病院乳腺・腫瘍内科、消化器内科研究
修
平成18年(2006年) 県立広島病院臨床腫瘍科・部長
平成20年(2008年) 県立広島病院臨床腫瘍科・主任部長
平成23年(2011年) JA尾道総合病院化学療法センター・非常勤医師
平成24年(2012年) 広島大学医学部臨床教授(至現在)

大学病院では、実地医療面ではなく、研究・外部資金獲得で評価される傾向にあり、そのためか研究面では基礎研究に比較して臨床研究は疎かにされがちである。

国立がんセンター中央病院(当時)の研修で、がん医療の質の向上のための様々な施策や臨床研究を知り、このような研究が現場の医療の質の向上にはより重要だと痛感し、是非広島県でも展開していくことが重要だと痛感した。



がんの痛み、痛み以外の身体的苦痛、日常生活動作の支障
治療法を知りたい、セカンドオピニオンを利用したい等

```
graph TD; Center([がん患者の思い  
(不安、痛み、関心、意欲等)]); Top([①身体的]); BottomLeft([②社会的]); BottomRight([③精神的]); Center --> Top; Center --> BottomLeft; Center --> BottomRight; Top --- TopText[医療/医療・介護サービス]; BottomLeft --- BottomLeftText[医療費/療養生活]; BottomRight --- BottomRightText[支え合いの場/情報の入手];
```

①身体的 医療/医療・介護サービス

がん患者の思い
(不安、痛み、関心、意欲等)

医療費/療養生活

②社会的

支え合いの場/情報の入手

③精神的

家族(配偶者・子ども)の問題
経済的な問題、病院から在宅へ戻って治療を受けたい等

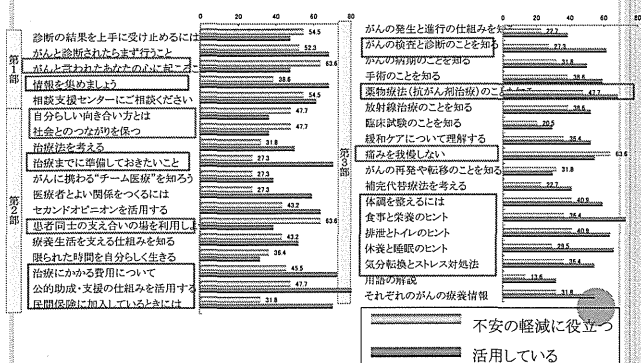
不安、絶望感、孤独感、うつ状態、治療に対する意欲、治療しながら同じ病気の方と話したい等

印刷発注 ⇒ 納品、送付

[illegible]

参加者 計135名(うち院外84)
薬剤師 93人(うち院外82)
医師 22人(うち院外1)
看護師 10人(すべて院内)
事務職等 10人(うち院外1)

- ・患者の情報ニーズを実感している
- ・抗がん剤に限らず、費用や療養に関する情報まで幅広い情報提供ニーズを示唆
- ・情報共有の場、ツール活用の提案



2006年 がん対策基本法
2007年 第一次がん対策基本計画
2012年 第二次がん対策基本計画

「がん患者を含む国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない社会」を目指す

1. がんによる死亡率の減少
2. 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持・向上
3. がんになっても安心して暮らせる社会の構築

[illegible]

在宅での生活
(ケアハウスなど多様な居住の場を含む)

緊急時に入院可能な病院・有床診療所
(在宅医療を支援する施設)

病院

有床診療所

病院

かかりつけ医療機関
(診療所・一般病院等)

医師

医師

医師

看護師

緊急時に遠くまで医師の相互連携
(グループ)

訪問看護ステーション、
薬局、ケアマネ
ジャー等

指示、協力

連携

看取り・死亡届出

地域的な介護支援
連携、指導

連絡

急病発生など緊急時に入院

顔が分かる関係

顔の向こう側が見える関係 (人となりが分かる関係)

顔を通り越えて信頼できる関係

【話す機会がある】
グループワーク・日常的な会話・患者と一緒に
見ることを通じて、性格、長所と短所、
仕事のやり方、理念、人となりが分かる

「顔が分かるから安心して連絡しやすい」

「役割を果たせるキーパーソンが分かる」

「相手に合わせて自分の対応を変えるようになる」

「同じことを繰り返して信頼を得ることで効率が良くなる」

「親近感がわく」

「責任のある対応をする」

連携しやすい

森田 達也ら, Palliative Care Research 2012; 7(1): 323-33

座長：県立広島病院 緩和ケア科 主任部長 本家 好文

(1)「臨床腫瘍科における在宅緩和ケアへの課題」

講師：県立広島病院 臨床腫瘍科 主任部長 篠崎 勝則

(2)「地域における緩和ケア病棟の役割」

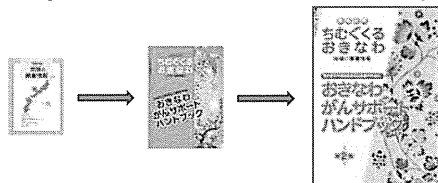
講師：県立広島病院 緩和ケア科 部長 岡崎 正典

(3)「緩和ケア領域における地域連携：現状と今後の課題」

講師：県立広島病院 地域連携科 主任 佐々木涼子

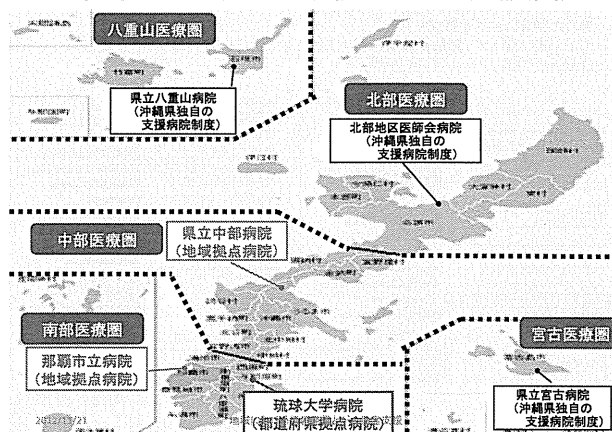
がん臨床研究推進事業 研修会
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて2012
地域における情報発信とがん患者支援

地域で作る沖縄県版「地域の療養情報」 『おきなわがんサポートハンドブック第2版』

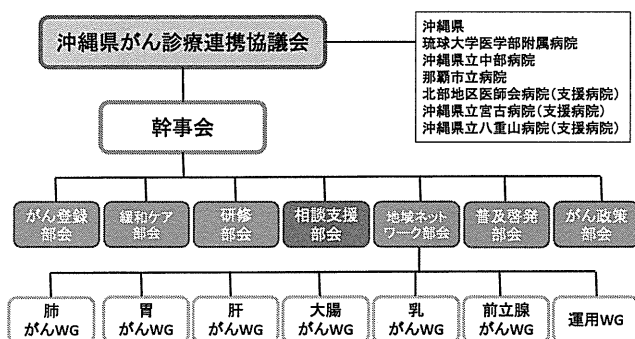


琉球大学医学部附属病院がんセンター
増田 昌人

沖縄県のがん診療連携拠点病院と支援病院



沖縄県がん診療連携協議会組織図



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

3

沖縄県がん診療連携協議会委員

県拠点病院 (10名)	地域拠点病院・ 支援病院(12名)	沖縄県および 各種団体(6名)	患者委員および 有識者委員(6名)
病院長	地域拠点病院長	県政参与(副知事相当)	患者関係委員若干名
副病院長	同副院長から1名	県福祉保健部長	(1) 患者
前病院長(医学部長)	同部長から1名	医師会長	(2) 患者家族
看護部長	支援病院長	歯科医師会長	(3) 患者遺族
薬剤部長	同副院長・部長から1名	薬剤師会長	有識者 若干名
医療福祉支援 センター長		看護協会長	(1) がん対策推進協議会 会長代理
病理部長			(2) 医療系シンクタンク理事
歯科口腔外科科長			(3) 地元新聞記者
事務部長			
がんセンター長			

2012/11/21



地域における情報発信とがん患者支援

4

「地域の療養情報」沖縄県版(第1版) 「おきなわがんサポートハンドブック」

- ・ 沖縄県内の治療や療養生活に役立つ身近な相談窓口などの情報をとりまとめた冊子
- ・ 沖縄県・沖縄県がん診療連携協議会・琉球大学医学部附属病院がんセンターの三者が共同で2011年3月に2万部発刊
- ・ 同年4月に各患者会、自治体、福祉保健所、医療施設等への配布が完了
- ・ 同年5月から拠点病院を中心に、がん患者さんとその家族に担当医等から無料配布を開始
- ・ 患者必携「地域の療養情報」の発行、無料配布は国内初



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

5

地域の療養情報 第2版 概要

1. 目的:
がん患者とその家族に地域で療養生活を送るために必要となる情報の提供することにより、より質の高い生活を送ることができる環境を整備する。
2. 配布対象者: 全てのがん患者(治癒した方は除く)とその家族
* 第1版をお持ちの方にも配布する
* 一般の方には原則として配布しない
* 18-70歳のがん患者を主な読者と想定して編集
3. 規格: A5フルカラー, 68ページ, 2万部
4. 完成日: 2012年2月28日
5. 予算: 沖縄県がん医療連携体制推進事業300万円

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

6